

企業名： 関電工

レポート名： KANDENKO INTEGRATED REPORT 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

株式会社関電工（以下、関電工）は電気設備工事やリニューアル工事などの工事を請け負う総合設備企業である。同社は3ヵ年中期経営計画を掲げ、ESG経営の推進を目標としている。具体的な目標としては売上高やROEなどの数値ベースの目標を定めており、これは理解が容易であった。しかし、この計画では重点方針として5項目を挙げているが、そのうち「健全な経営活動の推進」「ひといち力の向上」については本文中の説明がない。特に後者は一般的な用語ではないのでより踏み込んだ説明が必要と感じた。加えて、社会的な課題への取り組みについて、新たな価値の提供を通して社会課題の解決に貢献するとしている。再生可能エネルギー事業ならば風力発電事業など、具体的な事業を大きく取り上げることによって読者がより容易にイメージできると感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

関電工は全国各地で電気設備事業を展開しており、業界の中でもトップに位置するため明らかに優位に立っていると言える。また、電力のインフラ整備事業についても、我々の生活に不可欠であるため優位性は高いことが読み取れた。現状の同業種の中において優位に立っているということは報告書から理解できた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

電力のインフラ整備事業については、我々の生活に必要不可欠でありかつシェアを奪うことが難しいと考えられ、加えて老朽化など将来にわたり整備が必要となるため、持続性は高いと考える。一方で電気設備事業については、関電工独自の突出した強みなどは感じられなかった。競合他社と比べて独自の取り組みや具体的にどれほどのシェアを得ているのかといった情報があるとよりイメージしやすくなると感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

従業員への取り組みについて報告書を参照すると、通常の研修は各役職ごとの専門的な研

修から全体で共通して行われる研修まで幅広く行われている。また、こうしたものとは別に日常の業務を通じて先輩社員が後輩社員に実践的な技能を教える制度も整っている。さらに資格取得についてもバックアップが存在する。こうした制度を有効活用すれば、自身の人的資本としての価値を向上させることができると感じた。ただ、詳しいことは述べられておらず、具体的なイメージは浮かばなかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的に具体的な記述を増やすことで、事前知識の無い学生が目線からでもイメージすることが容易になると感じた。電気設備という生活に根ざしている必要不可欠な事業であるだけに、より親近感の湧くような事例も存在すると感じた。